

原発問題を考えよう！

福島第一原発は本当に冷温停止状態になったのか！？

先月16日、政府・野田首相は「福島第一原発事故は冷温停止状態に入り、事故そのものは収束した」と発表しました。

『冷温停止』という言葉は、菅前首相が福島第一原子力発電所の『冷温停止』を退陣時期のメドとしたなどで有名になった言葉ですが、『冷温停止状態』とはどういうことでしょうか？

調べてみますと、『冷温停止』は【原子力発電所において、原子炉モードスイッチが「燃料取替」または「停止」位置にあり、かつ、原子炉内の水の温度が100℃未満の状態。継続的な安定冷却が保たれた原子炉は放射性物質が放出されない状態】とあります。

一方、『冷温停止状態』は【原子力発電所などにおいて、原子炉内の温度が100℃未満となり原子炉が安定的に停止した状態のこと】とあります。

比べてみますと一見大きな違いはないように思いますが、放射性物質が放出されていないという大きな相違点があります。

ところで福島第一原発の1号機から3号機はメルトダウンしているのは間違いないと言われており、原子炉圧力容器の底が抜けて溶け落ちた燃料について、実際にはどれ位の燃料が溶け出し、原子炉のどの部分に、どのような状態であるかさえわかっていない状態で、とても原子炉が安定的に停止した状態とは言えず『冷温停止状態』かどうか大いに疑問があります。

『冷温停止状態』発表、海外メディアは厳しく批判！！

IAEA (国際原子力機関) は、発表を受け、事故収束に向けた工程表のステップ2を日本政府と東京電力が計画通りに終えたと評価したそうですが、海外メディアはドイツ : 「まだ、安全な状態には程遠い。これで冷温停止を宣言するのは意図的なウソと紙一重。日本政府は国民の判断を誤らせている」

「東京電力には良いことだが住民にとっては意味がない」

アメリカ: 「年末までに冷却システムを回復させるとの日本政府の約束を反映させたにすぎず、原子炉が依然として抱える危険から注意をそらせる恐れがある」

「科学的というよりはむしろ政治的な判断に基づいたものである」

「日本政府は大きな出来事としようとしているが、現実とは違う。原発の安全性は6月時点と基本的には変わっていない」

韓国 : 「事故の収束作業が峠を越えたと国内外に示そうという意図。一部の専門家は『性急だ』と批判している」

以上のように海外メディアは懐疑的な見方をし、宣言を疑問視しています。

政府は、政治的な宣言を行うことで原発事故が終わったかの印象を与え、原発の早期再稼働や原発の輸出などを狙っているのかもしれませんが。

しかし、事故そのものは収束したとしながらも原子力緊急事態宣言が解除されていないという矛盾に事故が収束していないことがあらわれています。

明日の日本のためにも原発問題を考え、行動しましょう！